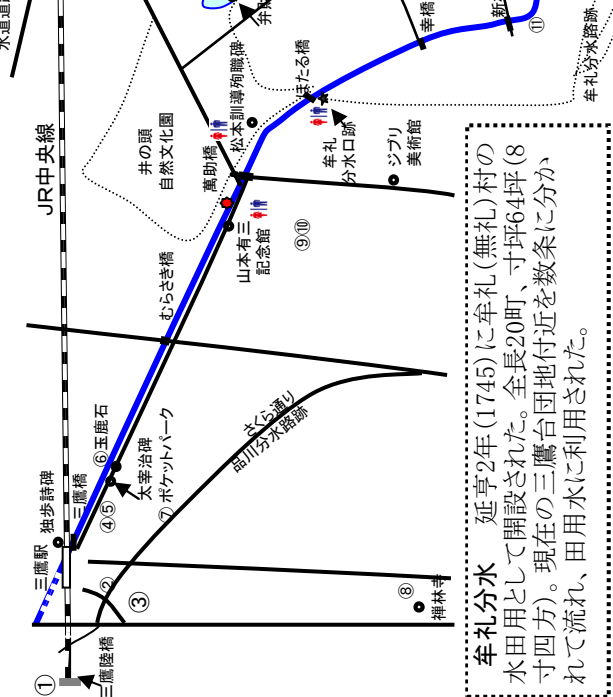


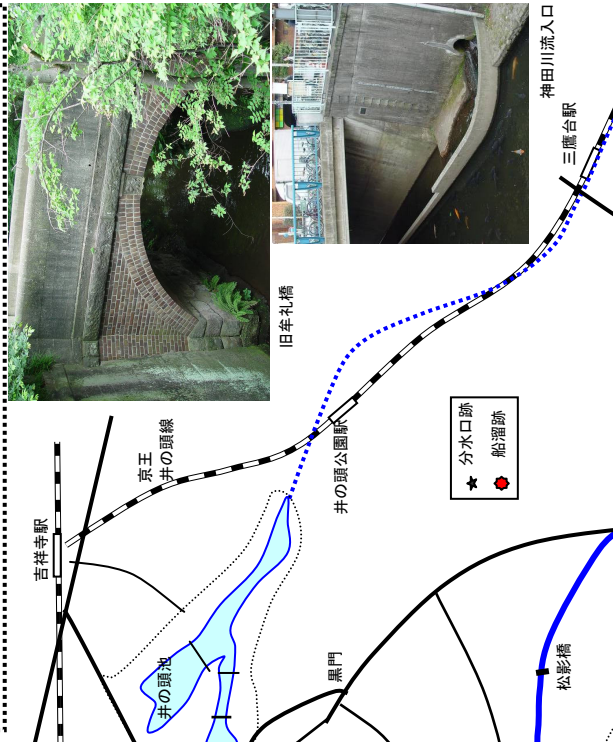
散歩ガイドマップ

三鷹から富士見ヶ丘駅
三鷹駅から富士見ヶ丘駅まで約5.8キロ



神田上水の水源 井の頭池

井の頭池は三鷹市と武蔵野市にまたがる面積4万3,000平方メートルの池。神田川の水源地となる。徳川家康は天正18年(1590)関東入国後、家臣に命じて井の頭池の水を水源とし、神田、日本橋、京橋方面に給水、これが神田上水。

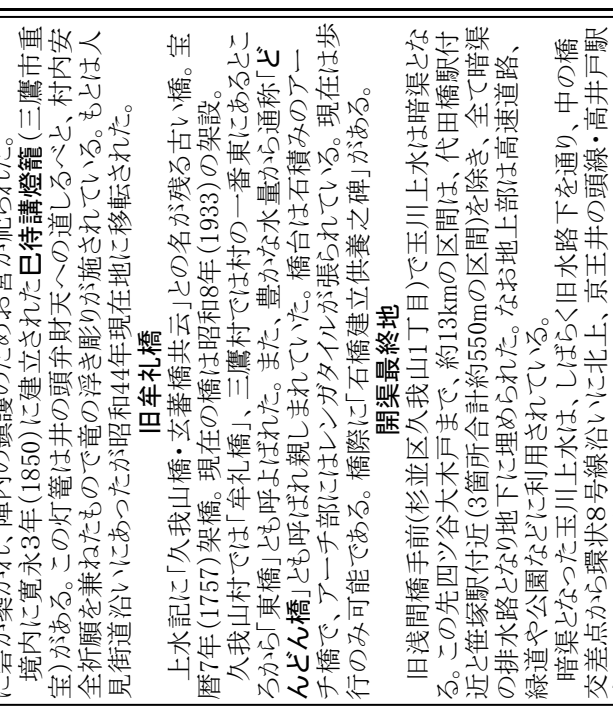


宮下橋と牟礼神明社

明治年間からある古い橋。橋の南西側約150mに神明社がある。このお宮の下にある橋から橋名がつけられたとされる。

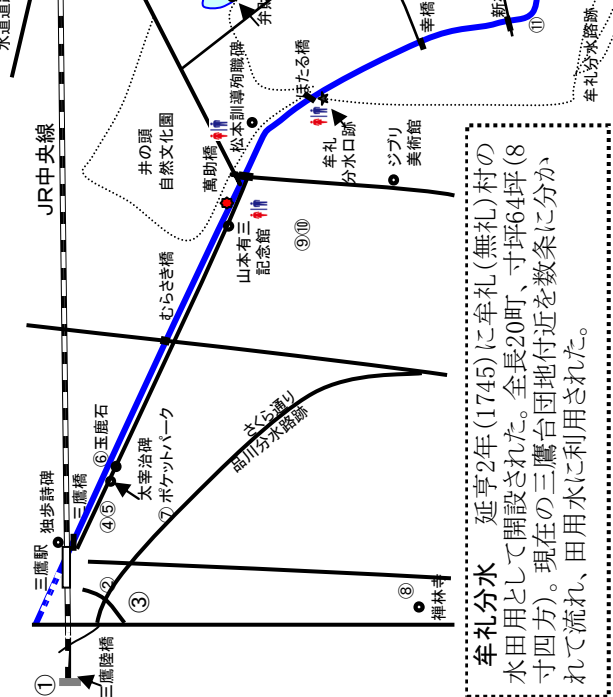
牟礼神明社

この付近は三鷹市内では一番の高台(標高60m)で、古くは高番山とも呼ばれ、富士山も望める。戦国時代に砦が築かれ、陣内の鎮護のためお宮が祀られた。境内に寛永3年(1850)に建立された**巳待講燈籠**(三鷹市重宝)がある。この灯籠は井の頭弁財天への道しるべと、村内安全祈願を兼ねたもので竜の浮き彫りが施されている。もとは人見街道沿いにあったが昭和44年現在地に移転された。



車札分水

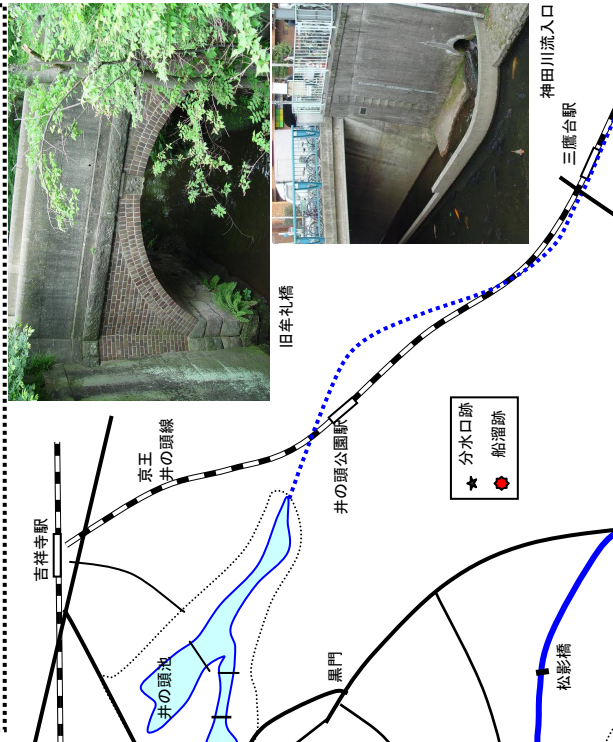
延享2年(1745)に牟礼(無礼)村の水田用として開設された。全長20町、寸坪64坪(8寸四方)。現在の三鷹台団地付近を数条に分かれて流れ、田用水に利用された。



鳥山(烏山村)分水・北沢(上北澤村)分水

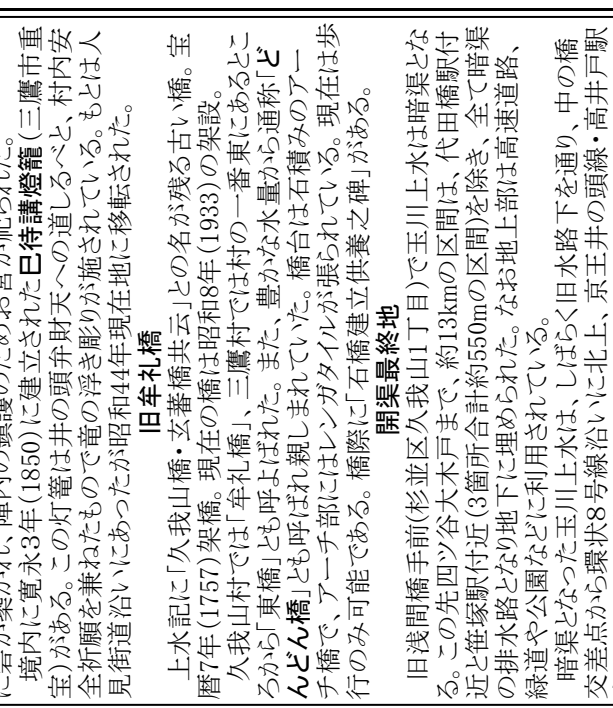
鳥山分水 万治2年(1659)鳥山村など10ヶ村(粕谷村、廻り沢村、船橋村、経堂在家村、世田谷村、若林村、太子堂村、三宿村、八幡山村)への水田用水として引かれた。全長1里半水口寸坪25坪(5寸四方)、開設当初の取水口は1尺四方鳥山村内とあるが詳細は不詳、天明8年に上高井戸村内に移設された。

北沢分水 万治元年上北沢村など5ヶ村(赤堤村、世田谷村、松原村、代田村)への水田用水として引かれた。全長1里半水口寸坪100坪(1尺四方)開設当初の取水口は1尺4寸四方で北沢村牛窪に設けられ、天明8年(1788)上高井戸村に移設された。ともに明治4年(1871)、通船開始に伴い現在地に移設された。



開渠最終地

旧浅間橋手前(杉並区久我山1丁目)で玉川上水は暗渠となる。この先四ツ谷大木戸まで、約13kmの区間は、代田橋駅付近と笹塚駅付近(3箇所合計約550mの区間)を除き、全て暗渠の排水路となり地下に埋められた。なお地上部は高速道路、緑道や公園などに利用されている。



- ### 太宰治ゆかりの地 (地図上の丸数字)
- 三鷹陸橋** 太宰お気に入りの跨線橋。黒マント姿の写真が有名。昭和4年に竣工。当時のままも残る。
 - 駅前郵便局** 原稿料の受け取りなどに利用したとされ。作品にも登場する。
 - 中鉢家跡** 昭和21年、3ヶ月間2階を仕事部屋に借り、「ヴィヨンの妻」などを書いた。
 - 千草跡** 太宰が通いつめた小料理屋「千草」があった。2階は仕事部屋にも使っていた。
 - 野川家跡** 2階を山崎富栄が間借りしていた。仕事部屋にも使われる。太宰との死への旅立ちはこのことから。
 - 玉鹿石** 入水場所付近に置かれた生地・金木村産の石。
 - 三鷹文学サロン** 三鷹市は没後60年・生誕100年記念事業として、太宰がよく酒を買った「伊勢元酒店」の跡地に開設。
 - 禅林寺** 太宰の尊敬した森鴎外の墓の斜め向かいに太宰も眠る。6月19日の桜桃忌には太宰ファンが集う。
 - 太宰治旧居跡** 三鷹時代を過ごした家の跡。6畳、4畳半、3畳の3間。同じ造りの平屋の家が畑の中に3軒並んでいた。
 - みたか井心亭** 三鷹市の和風文化施設。太宰宅の庭にあった「百日紅」が移植されている。
 - 新橋** この橋の清流・右岸で抱き合った二人の遺体が発見された。
 - 久我山水衛所** 入水後二人の下駄が片方ずつ流れ着く。

